

# 2023 年活動状況報告

一般社団法人  
石川県サッカー協会

## ■ 種別・委員会

### 1. トップリーグ（Jリーグ）[理事：西川 圭史]

柳下監督体制となり7年目、過去最高の布陣で臨んだシーズンであったが、これまで以上にポジションを重視するサッカーを最後までチームとして落とし込むことができず、最終成績は22チーム中22位の最下位なり、J3への降格が決定した。

- ・最終成績 22 位（勝点 35 9勝8分25敗 41得点70失点 得失点差△29）
- ・観客数 総数 88,722 人（昨シーズン +16,880 人）  
1 試合平均 4,225 人（同 +804 人）

### 2. トップリーグ（Fリーグ）[理事：鈴木 修平]

2023年シーズンも、協会の皆様をはじめ沢山の皆様のご協力を頂き心より感謝申し上げます。今シーズンより、6月から12月と昨シーズンより2か月短い厳しい開催期間となりましたが、選手・スタッフともに、今シーズンのスローガンでもありました覚悟をもって戦えたことは大きな自信となりました。

順位は、厳しい状況ではありますが、ディビジョン1にあがれるように邁進してまいります。来シーズンに向けて、以前の観客動員数に戻せるよう尽力し、ディビジョン2優勝を目指します。

### 3. 第1種(天皇杯、県選手権) [理事/委員長：坂口 公介]

第52回石川県サッカー選手権は5月7日（日）金沢市民サッカー場で開催された。北陸大学サッカー部が金沢学院大学サッカー部を2-1（1-0）で破り、2年連続6回目の優勝となった。天皇杯1回戦は、5月21日（日）高岡スポーツコア サッカー・ラグビー場で開催され、富山県代表のカターレ富山（J3）と対戦した北陸大学サッカー部でしたが結果は2-1（1-0）で1回戦敗退となった。

J2での出場となったツエーゲン金沢ですが、6月7日（水）西部緑地公園陸上競技場で同じJ2所属のFC町田ゼルビアと2回戦で対戦し2-3（1-2）で敗退となった。

#### 4. 第1種(社会人) [理事/委員長：坂口 公介]

##### 北信越地域大会

第49回北信越フットボールリーグ1部所属のFC北陸は1勝3分10敗で最下位の8位で終了し、次年度2部への降格となった。

2部所属のSRKomatsuは8勝2分4敗の2位で終了、次年度初の1部リーグ昇格となった。又、北信越フットボールリーグ表彰で、SRKomatsuのFWウメオフィア・ジョン・ボスコ・ウンズベ選手がFW部門の優秀選手、リーグ得点王(13得点)の受賞となった。

第46回北信越サッカー県リーグ決勝大会(北信越チャレンジリーグ2023)は、10月8日～11月13日まで北信越各地で開催、石川県代表で出場したLionPower小松が3勝1敗で2位となり、次年度北信越2部リーグに昇格となった。(2006年以来)

第59回全国社会人サッカー選手権大会北信越大会は日東シンコースタジアム丸岡(福井県)で7月8日～9日で開催され、石川県代表で出場したSRKomatsuは富山新庄クラブ(富山県代表)と対戦し、1-2(0-1)で1回戦敗退となった。

第30回全国クラブチームサッカー選手権大会北信越大会は北陸建工グループアスリートフィールドで8月26日～27日で開催され、石川県代表のセブンFCは1回戦servicio(新潟県代表)と対戦し3-0(1-0)で勝利。代表決定戦では、前年度優勝で出場しているテイヘンズFCと石川県勢同士の組合せとなり、1-1(0-0)PK4-3でテイヘンズFCが全国大会出場となった。

その全国大会は10月30日～11月2日帯広の森球技場(北海道帯広市)で開催され、テイヘンズFCは今大会の優勝チームだったE-WING出雲(中国/島根県)に0-7で1回戦敗退となった。

日本スポーツマスターズ2023サッカー競技北信越予選会は石川県加賀市陸上競技場で6月3日～4日で開催された。石川県からは県リーグ所属の選抜チーム、石川県O-35選抜で出場したがDREAM35(富山県代表)に0-4(0-2)で敗退となった。

##### 石川県内大会

第59回全国社会人サッカー選手権大会石川県大会(3/19-6/11) 金沢市民他  
SRKomatsu 0-0(0-0)EX0-0(0-0)PK5-3 金沢学院大学 FC チャレンジャーズ

第30回全国クラブチームサッカー選手権大会石川県大会(3/12-8/20) 県サッカー場他  
セブンFC 7-1(4-1) LionPower小松

第59回石川県フットボールリーグ

1部 優勝 LionPower小松 9勝1敗

2部A 優勝 金沢学院大学 FC チャレンジャーズ 5勝1敗

2部B 優勝 セブンFC 5勝1分

3部A 優勝 14INF(旧陸自金沢) 6勝1分

3部B 優勝 エヴォラテール能登 6勝1分

## 5. 第1種(大学連) [理事：増田 和実]

(1) 第51回北信越大学サッカーリーグ(4/15~10/29)

1部リーグ 5位 北陸大学, 6位 金沢学院大学,

7位 金沢星稜大学(来季2部リーグへ降格)

2部リーグ 1位 金沢大学(来季1部リーグへ昇格), 7位 金沢工業大学

優勝 新潟医療福祉大学(7年連続10回目) 第72回全日本選手権大会に出場

(2) 第47回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会(5/27~6/24)

決勝 金沢学院大学 0-3 新潟医療福祉大学

準決勝 金沢学院大学 4-2 新潟産業大学, 金沢星稜大学 1-5 新潟医療福祉大学

3位決定戦 金沢星稜大学 1-2 新潟産業大学

優勝 新潟医療福祉大学(7回目)

優勝と2位 金沢学院大学の2チームは第47回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに出場。

一回戦 金沢学院大学 0-2 順天堂大学

(3) 2023年度インディペンデンスリーグ(7/1~10/29, 代表決定戦 11/3)

北陸地区 1位 北陸大学, 2位 金沢学院大学 B, 3位 金沢学院大学 C

北信越代表決定戦 北陸大学 0-1 新潟医療福祉大学 D

優勝 新潟医療福祉大学 D

(4) 第2回石川県大学サッカー新人戦(9/5~9/12)

優勝 金沢学院大学, 2位 金沢星稜大学, 3位 金沢大学

(5) 第2回全日本大学サッカー新人戦北信越大会(11/3~11/19, 予備試合 10/1)

(第7回全日本大学サッカー新人戦への北信越予選)

準決勝 北陸大学 0-0(PK 4-2) 新潟医療福祉大学

決勝 北陸大学 0-2 新潟経営大学

優勝 新潟経営大学, 2位 北陸大学

## 6. 第2種 [理事/委員長：山上 茂信]

[高体連関係]

・県高校総体 優勝 金沢学院大学附属高校(初出場)、準優勝 遊学館高校

・全国高校総体 金沢学院大学附属高校 1回戦敗退

・県高校選手権石川県大会 優勝 星稜高校、準優勝 鵬学園高校

・県高校新人大会 優勝 金沢桜丘高校、準優勝 遊学館高校

[2種関係]

- ・高円宮杯 JFA プリンスリーグ北信越

(1部)

第4位 星稜高校、第5位 鵬学園高校、第6位 ツエーゲン金沢 U18

【いずれも来季1部残留】

(2部)

第5位 遊学館高校、第7位 星稜高校 2nd【いずれも来季2部残留】

- ・高円宮杯 JFA サッカーリーグ石川

第1位 金沢学院大学附属高校、第2位 鵬学園高校 2nd

※以上2チームがプリンスリーグ2部昇格プレーに進出。

- ・プリンスリーグプレーオフ

1回戦 金沢学院大学附属高校 5-0 北陸高校、鵬学園 2nd 2-3 上越高校

代表決定戦 金沢学院大学附属高校 0-3 帝京長岡 3rd

※両チームとも来季県リーグ1部残留。

## 7. クラブユース [理事：吉田 泰]

### [U-18]

- ◎クラブユース選手権

・北信越大会 ツエーゲン金沢：第4位

- ◎TownClubCUP

・北信越大会 FC.SOUTHERN 出場

### [U-15]

- ◎クラブユース選手権

・県大会 優勝：SOLTILO SEIRO 準優勝：サイバーステーション金沢 第3位：FC小松  
(15チーム参加 ※ツエーゲン、エスポ、セブン、パテオは北信越リーグのため県予選免除)

・北信越大会 ツエーゲン金沢：準優勝 セブン能登：第4位

・全国大会 ツエーゲン金沢：ベスト16

・インターシティカップ セブン能登：ベスト16

- ◎クラブユース新人大大会

・県大会 優勝：ツエーゲン金沢 準優勝：パテオ金沢 第3位：エスポワール白山

・北信越大会 ツエーゲン金沢：優勝

## 7. 第3種 [理事／委員長：西野哲之]

### [3種]

#### (ア)北信越リーグ

今年、U15リーグは12チーム中4チームが石川県勢となった。U15(12チーム中)

優勝：ツエーゲン金沢 4位：エスポワール白山 5位：セブン能登

10位：PateoFC金沢

ツエーゲンは4年ぶり3度目の優勝を果たし、他チームも残留して石川県が3種年代では高いレベルを維持していることを示すことが出来た。

U13(10チーム中) 4位：ツエーゲン金沢 8位：エスポワール白山

昨年より順位は落としたものの2チームとも残留となった。

#### (イ)県リーグ

県U15リーグは1部から3部まで合計77チームが半年間のリーグ戦を戦った。

U15・1部 1位：FC北陸U15 2位：ツエーゲン金沢2nd

3位：SOLTILO-SEIRYO

県U13リーグは強化リーグ8チーム、育成リーグ14チームが参加した。

U13・強化 1位：PateoFC金沢

Pateoは北信越U13入替戦でも勝利し来年度の北信越U13リーグ出場権を得た。

#### (ウ)高円宮杯JFA全日本U15選手権

北信越リーグの入替戦を兼ねて行われたが、県から出場したFC北陸とSOLTILO SEIRは残念ながら初戦敗退であった。一方、エスポワール白山は決勝まで勝ち上がったものの惜しくも全国大会出場は逃した。

北信越リーグ1位で全国大会出場権を得ていたツエーゲン金沢は初戦、関東2位の強豪・横浜Fマリノスと対戦し、4-2で逆転勝ちして5年ぶりに全国での勝利を得た。しかし2回戦では中国1位・サンフレッチェ広島に敗退した。

### [中体連]

中体連の全中予選も7月-8月の猛暑の中、予定どおりの日程で実施された。

石川県大会を勝ち上がったのは七尾中と星稜中であった。下馬評の高い実力的には一歩優れた星稜中に対し七尾中は4種年代から築いたチームワークで粘り強く戦い接戦を制した。

北信越大会は本県開催となり七尾中は延長で惜しくも初戦敗退、星稜中は全中を賭けた準決勝で敗退し、来年度の石川全中を前に残念ながら今年も全中出場を逃すこととなった。来年度の石川全中では県勢の活躍が期待されることである。

## 8. 第4種 [理事/委員長：古西 広]

5月5日に、「新型コロナウイルス感染症」が感染症法の位置付け「第5類」になったことから、県大会の開催についてはほぼ通常通り行うことができた。

4種委員会についても、ほぼ毎月の12回開催し、大会に向けての意見交換など活発な意見交換を行うことができた。また、12月には、4年ぶりとなる納会を開催し、県内各チーム、スポンサーの方々など120名の参加をいただき盛大に交流を図った。

4種としては、2年後の2025年から全日本大会決勝大会の参加資格に、指導者のC級資格が義務化となることに鑑み、各チームに対し資格を保持するよう呼びかけている。県大会の各試合についても、ベンチ入りする指導者については、全員が資格を保持することを必須とする方針を打ち出している。

さらに審判員についても、主審は3級資格者がゲームコントロールすることを目標としており、各チームに周知しているところである。

今後も、子供たちのサッカー環境がさらに向上するよう様々な取り組みを行っていきたい。

主な大会の結果は下記のとおり。

### ○若葉旗・ひまわりほーむカップ争奪第39 石川県ジュニアサッカー大会

U-12 優勝：ツエーゲン金沢 U-12

U-11 優勝：セブン SS

### ○第52回石川県スポーツ少年団交流大会

優勝：額サッカースポーツ少年団

### ○NHK 金沢放送局長杯第46回石川県少年サッカー新人大会

優勝：ツエーゲン金沢 U-12

### ○ハトマーク杯第14回石川県8人制サッカーU-10U-10大会

優勝：菊川 FC Jr.

### ○JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会石川県大会

優勝：符津スポーツ少年団サッカー部

### ○2023フジパンCUP 第22回北信越U-12サッカー選手権大会

第5位：ツエーゲン金沢 U-12 第7位：符津スポーツ少年団サッカー部

第9位：SOLTILO SEIRYO FC U12

## 9. 女子[理事/委員長：松嶋 幸治]

### ①皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー大会石川県大会を7月に開催。

決勝：北陸大学フィオーレ (5-0) 金沢学院 LFC

※北陸大学フィオーレが県代表として、リールウルフ F.石川がシード (北信越リーグ前期1位)

として北信越大会 (富山県開催) に出場し、リールウルフ F.石川が優勝 (2年連続) し、11月から開催の全国大会への出場権獲得を決めた。

北信越大会： 1 回戦 北陸大学フィオーレ (0-8) 福井工大福井高校 (福井県代表)

1 回戦 リーウルフ F 石川 (10-0) 松商学園高校 (長野県代表)

準決勝 リーウルフ F 石川 (5-0) 福井工大福井高校 (福井県代表)

決勝 リーウルフ F 石川 (2-1) 帝京長岡高校 (新潟県代表)

全国大会： 1 回戦 リーウルフ F 石川【北信越代表】 (0-4) 藤枝順心高校【東海代表】

②JFA 第 27 回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会北信越大会 (福井県開催) に石川県代表 (協会推薦) として北陸大学フィオーレが出場し、惜しくも決勝で敗退。

北信越大会

※1 回戦：不戦勝

準決勝：北陸大学フィオーレ (1-0) AC 長野パルセイロ・シュベスター (前年度優勝枠)

決勝：北陸大学フィオーレ (0-7) アルビレックス新潟レディース U-18 (新潟県代表)

③JFA 第 28 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会石川県大会を 7 月に開催。

決勝：SOLTILO SEIRYO PEL (1-0) 金沢学院 LFC

※SOLTILO SEIRYO PEL が県代表として、北陸大学フィオーレ (北信越 U-15 リーグ前期 1 位) がシードとして、北信越大会 (長野県開催) に出場し、北陸大学フィオーレが初優勝し北信越第一代表として全国大会への出場権獲得を決めた。

北信越大会：

1 回戦 北陸大学フィオーレ(シード枠) (5-1) SOLTILO SEIRYO PEL (石川県代表)

準決勝 北陸大学フィオーレ (6-1) 富山レディースサッカークラブ (富山県代表)

決勝 北陸大学フィオーレ (1-0) アルビレックス新潟レディース (新潟県シード枠)

全国大会：

1 回戦 北陸大学フィオーレ【北信越 1】 (6-1) FC みやぎ【東北 2/宮城県】

2 回戦 北陸大学フィオーレ【北信越 1】 (0-1) 神村学園中等部女子サッカー部【九州 1 /鹿児島】

④第 32 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会石川県大会を 9 月に開催。

決勝：星稜高校女子サッカー部 (2-1) 金沢伏見高校女子サッカー部

※星稜高校、金沢伏見高校の両チームが、県代表として北信越大会 (新潟県開催) に出場し、両チームとも 1 回戦での敗退。

1 回戦：金沢伏見高校 0-14) 佐久長聖高校【長野県代表】

1 回戦：星稜高校 (0-8) 福井工大福井高校【福井県代表】

⑤北信越女子リーグ並びに北信越女子 U-15 リーグを 4 月から開催し、11 月末日をもって全日程が終了。

北信越女子リーグ：リーウルフ F 石川 (1 位) 北陸大学フィオーレ (7 位)

北信越 U-15 女子リーグ：北陸大学フィオーレ (3 位) SOLTILO SEIRYO PEL (7 位)

⑥石川県女子サッカー普及リーグは 8 チームリーグとして 5 月から開幕し、12 月で全日程終了。

優勝:FC.TON レディース

- ⑦JFA レディース・ガールズサッカーフェスティバル及び IFA 女子普及フェスティバルを 4 月から定期的に開催し、多くの子供達の参加があり、女子サッカーの普及活動を実施。(各 2 回開催)
- ⑧JFA ディズニーマジカルフィールドファミリーサッカーフェスティバルを 11 月 26 日に、松任総合運動公園体育館にて開催し、68 組の親子にサッカーの楽しさを体験。

## 10.シニア [委員長：森下豊、理事：西川透]

### (1) 石川県シニアサッカーリーグ

4 月～11 月に予定通り実施。各カテゴリーの 1 位は次の通り

O-40 I 部：金沢フェニックス、O-40 II 部：野々市シニア、O-40 III 部：金沢南シニア

O-50 I 部：小松エルダース、O-50 II 部：加賀シニア

O-60：ジョーカーズ 55

### (2) JFA 全日本 O-40,O-50,O-60 サッカー大会石川県大会

5 月～11 月に予定通り実施。各カテゴリーの優勝は次の通り

O-40：金沢フェニックス（今年度の北信越大会に出場）

O-50：金沢フェニックス（来年度の北信越大会に出場予定）

O-60：ゼフィーロ（今年度の北信越大会に出場）

### (3) JFA 全日本 O-40,O-50,O-60,O-70 サッカー大会北信越大会

4 月、7 月、10 月に予定通り実施。各カテゴリーの成績は次の通り

O-40：金沢フェニックス(グループ 1 位→決勝戦 0-0、PK3-5)準優勝(2023 全国大会へ)

O-50：松任 FC シニア (グループ 3 位)

O-60：ゼフィーロ (グループ 1 位→決勝戦 0-1) 準優勝 (2024 全国大会へ)

O-70：石川選抜 2 勝→優勝 (2024 全国大会へ)

### (4) JFA 第 11 回全日本 O-40 サッカー大会

9 月 30 日～10 月 2 日 (長崎県)

北信越代表として出場した金沢フェニックスはグループリーグ 4 位となり、決勝トーナメントに進めず

### (5)シニアサッカー普及促進事業

高校対抗 OB 交流大会 (8/15) 台風接近のため中止

シニアフェスティバル (9/18) O-50,O-60,O-65,O-70,障がい者チームの 8 チームが参加

和倉いで湯カップ (10/28～29,11/4～5) 全国から O-40,O-50,O-60 のカテゴリーに 26 チーム参加

シニアフットサル大会 (1 月～3 月予定)

### (6)その他大会

いしかわスポレク大会 (6 月 4 日) O-50,O-65 のカテゴリーに計 13 チームが参加

ゆーりんピック (5 月 20～21 日) O-65,O-70 のカテゴリーに計 9 チームが参加



## 11.フットサル [理事／委員長：松山 誠志]

昨年度大きな躍進を遂げた石川県勢。今年度も全日本 U18 フットサル選手権において前年度・全国優勝の遊学館高校が北信越大会・全国大会予選リーグを勝ち上がりベスト 8 進出、準々決勝は当大会準優勝のベスカドーラ町田 U18 に敗退したが、2 年連続最終ステージまで到達した。北信越女子フットサルリーグ 2023 では、リーグ参入 5 年目のヴァンセドール白山 LACO(ラース)が初優勝を成し遂げ、2024 年 2 月に栃木県で開催される地域女子チャンピオンズリーグに出場する。なお、フットサルにおいては今年度の大会が 2024 年 3 月まで行われるため、残りの大会での県勢の躍進と来年度のさらなる飛躍に期待したい。

## 12.キッズ [委員長：辰巳 勝]

### 【巡回指導】

コロナ明けが影響しているのか、巡回実施園が順調に増えている。

### 【キッズエリート】

能登、加賀、金沢の 3 地区で 3 年ぶりに活動を行っている。

全地区 1, 2 年生のみを対象とする予定だったが、加賀地区では想定ほど人が集まらず、3 年生までを対象としている。金沢地区でもコロナ前ほどのニーズはなくなってきている。

### 【キッズリーダー】

昨年度に引き続き、リリーウルフの選手や女子高生が養成講習会を受講し、フェスティバル等のスタッフとして参加していただいている。また、4 種チームからも声をかけていただき、チーム単位での講習会が開催されるようになってきている。

### 【フェスティバル】

ゲーム形式は、3 回予定していたが、うち 2 回は悪天候により中止となり 1 回のみ開催。FIFA グラスルーツ形式は、昨年同様に普及を大きな目的としている女子委員会とのコラボで開催した。また、今年度初めて親子フェスティバルを開催した。女子対象のディズニー FirstTouch からヒントを得たものだが、幼児が親といっしょに参加できるので、怖がることなくスムーズにイベントに入り、親子で楽しんでいる様子がうかがえた。さらに新しい試みとして、市町協会の協力を得ながら地方でのフェスティバルも開催できた。輪島市と加賀市で開催したが（2 月には羽咋市で開催予定）、各市サッカー協会の多大な協力のもと、未経験者も多数参加して楽しいフェスティバルとなった。

## 13.グラスルーツ [委員長：辰巳 義和]

11 月 3 日に金沢市鳴和台市民体育館で、第 4 回 IFA パラフットボール障がい者フェスティバル(後援:石川県)を開催した。一般の方向けに、石川県電動車椅子サッカー協会による電動車椅子サッカー体験、ツエーゲン金沢 BFC によるブラインドサッカー体験、そして FC.TON アグランド(知的障がい者サッカーチーム)と対戦するウォーキングフットボール体験の 3 種を 2 時間で行うものであった(First round と Second round の 2 部制)。

First round は、主に小学生を中心に 7 名、Second round は成人の方を中心に 5 名の参加があった。当日は、C 級指導者講習会が、この催しの後同所で開催されることもあり、Second round には、C 級指導者講習会の受講者も 1 名参加した。

今後も技術委員会とコラボし、参加者を増やしていけたら良い。

#### 14.技術(育成) [理事/委員長：中野勝彦]

トレセン活動は昨年に引き続き、「BONDS」(ボンズ：縦横につながる。絆をつくる。)を柱にして日常を重視し、各カテゴリーの活動を行った。

##### <U12トレセン>

昨年度課題であったガールズエイト(今年度は9/23,24)とガールズゲーム(9月から6月へ)の日程を入れ替えスムーズに活動できるように4種と連携をして実施した。

今年度もトレセン地区対抗戦(5/6.7)で男女のトレセンが交流(男子U11と女子U12)し連携・強化を図った。

NTC 北信越 U12(10/7~9)に、県内から 10 名が参加した。

北信越トレセン後期(12/2.3)(オリバー射水) JFA 推薦枠: 3 名、石川県推薦枠: 9 名が参加した。(今回の参加選手誕生月統計:全 4 2 名→4~9 月: 2 9 名 10~12 月: 4 名 1~3 月: 9 名)

北信越地域でも 4~9 月誕生の選手の選出が多い傾向にある。10 月以降生まれた選手の発掘も必要である。

女子も同時開催をし、6 名の選手が参加した。女子 U12 と U11 と交流(11/27)し、次年度につなぐ活動を行った。

##### <U15トレセン>

U13 前期の NTC が、昨年度より地域開催となった。本年度も長野(5/27、28)で開催した。U14 の NTCU14(5/18~21:J ヴィレッジ)に 2 名が参加した。

JFA エリートプログラム女子 U13 トレーニングキャンプ(6/23~26)に 3 名が参加した。

北信越トレセン U14(10/14.15)に U13 選手が FP:8 名、GK:3 名、U14 選手が FP:6 名 GK:3 名が参加した。

同時に北信越 GK キャンプ U14(10/14.15)が行われ、U13:3 名、U14:3 名が参加した。これで選ばれた U13: 3 名、U14: 4 名が NTC(11/23~26)に参加した。

この年代では、NTC(ナショナルトレセン)に参加する選手の輩出が一つの目標である。昨年と比べ  
ると若干であるが参加者が増えた。

女子では、4 名が U14 女子東日本 NTC(11/23~26)に参加した。

U15 では、U15 日本代表に高裕徳(セブン能登ジュニアユース)が選ばれ、EAFF U15 男子選手権に出場(9/1~8 於:香港)し、U15 年代の選手には大きな刺激となった。

U15 北信越トレセンリーグ(11/25、26 長野県松本)は、対新潟(2-2△)、対富山(2-4●)、対長野(5-2○)、対福井(1-0○)であった。来年度の国体チームのベースにもなるため、継続して活動することで、3年ぶりの出場に繋げていきたい。女子は中学生の負担軽減のため、U15 トレセンリーグへの出場は見送った。

#### <U16、17トレセン>

U16 北信越トレセンリーグ(前期)は、男女ともに4位であった。この結果で北信越国体の組み合わせが決定し本番を迎えた。残念ながら今年度、男女ともに出場権を獲得することはできなかった。

(詳細は強化で記載)

男子の県内出身者は、4種から9名、3種から3名、2種から6名 計18名であった。結果は出なかったが、U12,14,16のトレセン活動の積み上げはできていると感じている。

また、積み上げの一環となるU15 トレセン対U16 国体メンバーとの戦いを初めて試みた。(11/20)

U17 北信越選抜キャンプ(9/11~13)に、県内から11名が参加し日本代表と対戦した。そのキャンプの中から、U17日本代表に鈴木樟(鵬学園高校)が選出され、リモージュ国際大会(9/3~12 於:フランス)に出場した。久しぶりの代表選手選出で2種年代の選手へ大きな刺激となった。

### 15.技術(指導普及) [理事/委員長:中野勝彦]

選手の質を上げるには、指導者の質の向上は欠かせない。また、来年度より4種大会でのベンチコーチが、有資格者であることが義務化される。石川県の子どもたち、選手のために、特に4種と連携しながら、技術委員会としても指導者養成に力を注いだ。例年以上に以下の講習会等を行った。

#### <公認コーチ養成講習会>

C級コーチ(1コース 9/16~11/26 小松ドーム他) 21名資格取得

C級コーチ(2コース 10/8~11/26 内灘町屋内多目的広場他) 9名資格取得

C級コース(能登コース) 11/25~3/10 予定 和倉温泉多目的G) 9名受講中 延期

\*能登の指導者からの要望で開催

D級(1コース 11/18~19 北陸フットボールパーク) 24名資格取得

D級(2コース 3/16~17 予定 内灘屋内多目的広場) 最大20名で開催予定

#### <リフレッシュ研修会。>

C級(1コース 内灘屋内多目的広場) 12名受講

C級(2コース 金沢プール会議室、金沢市民サッカー場) 11名受講

\*B級リフレッシュを兼ねて実施

C級(3コース 12/2 北陸フットボールパーク) 26名受講

A・B級(12/2 北陸フットボールパーク) 11名受講

#### <A級・B級トライアル>

A級トライアル（11/12・19 北陸フットボールパーク）8名参加

→3名北信越A級ジェネラルトライアルへ（3/2、3 金沢大学）

#### <C級スキルアップ研修会（B級トライアル）>

8/19、26 9/30 11/19 北陸大他 9名受講

### 16.技術(強化) [理事/委員長：中野勝彦]

今年度は、成年男子、少年男子・女子の種別で国体が開催された。成年男子、少年男子ともに昨年はあと一歩で出場を逃しているため、今年度はスタッフの変更もなく盤石の態勢で準備、早い段階より強化を図り、北信越国体に臨んだ。

結果は、成年男子は代表決定戦で、対富山県（2-0○）に勝ち鹿児島国体の出場権を手にした。

少年男子は、対富山県（1-0●）、対新潟県（1-4●）と2敗を喫し昨年に引き続き出場権を逃した。

少年女子は、1回戦で対新潟県（0-4●）に敗戦し出場はかなわなかった。

成年男子は、本国体で1回戦で開催県鹿児島県（1-1PK●）と対戦し、惜しくも敗れた。しかしながら最後まで粘り強く戦い十分に力を発揮した結果となった。

特に、大学生ではなく、社会人中心にメンバーを組んだことは今後の成年の国体チームの編成に向けて、大きな道標を示した。

### 17.審判 [理事/委員長：勝二 国博]

#### 1 石川県審判トレセン

フィットネステスト・研修会(9/18、12/2)

#### 2 石川県指導者トレセン

(1) 2級インストラクター分析・指導研修会 (5/5、6)

(2) スキルリフレッシュ研修 プラクティカル (11/2)

#### 3 SI2 認定講審査(6/17、18)

#### 4 S2 認定講審査インストラクター派遣(9~11月)

#### 5 S4 新規認定講習会(4~7月 Webにて複数回開催)

#### 6 2級審判員研修会 (5/5、6)

#### 7 S2昇級審査 (9/10、17)

#### 8 3級育成会(一般、大学、2種、3種にて実施)：4月~11月

#### 9 F4新規講習会 (~8月 4回)

#### 10 北信越女子トレセン

第1回 6月3～4日 (石川県・和倉)

第2回 9月16～17日 (長野県・松本)

第3回 10月28～29日 (長野県・松本)

#### 11 北信越女子イントレ

第1回 6月16～18日 (新潟県・長岡)

第2回 8月11～13日 (新潟県・新潟市)

### 18.医学 [理事/委員長：島 洋祐]

まず初めに本年度もコロナ禍の状況にありながら、様々な IFA の活動を行う中で、感染対策や行動制限の遵守にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。コロナ禍による規制が多少緩和されたことにより、本年度は宿泊込みの医事派遣依頼も含め、全ての医事派遣依頼に対して穴を開けることなく医師 14 名・看護師 10 名を派遣することができた。また国体選抜チームへのメディカルサポートとしてトレーナーを 3 名派遣し、継続したサポートが可能となった。研修会に関しても昨年まではほぼオンラインであったが、現地開催も増え、より実のある研鑽が積める状況に戻りつつあることを喜ばしく思う。

### ■事務局 [常務理事/事務局長代行：北野 真一]

新型コロナウイルスも 5 月に 5 類移行となり、事業も計画通りに進行した。理事会も召集型に戻り、事務担当者会議は内容によりリモートおよび召集の形で開催した。

事務局の経理処理においては、10 月から開始となったインボイス制度に対応。また、広報面においては、Facebook に続いて Instagram を開始した。

6 月より事務局員 1 名増員し、事務局員の業務負荷分散を図り、広報・イベント対応を強化した。(県選・天皇杯・高校選手権やフェスティバルの運営サポートや広報に関する業務を担当)